第 23 回　ジョン・ケンドリック杯小中学生スピーチコンテスト

～ 2016 年 12 月 11 日、会場は子どもたちの英語力で溢れる! ～

１１月１日に串本町で開催された『日米修好 225 周年記念式典』のビデオメッセージで、「日米交流を拡大させるのは、若者たちです。225 年前の先人たちのように、勇気をもって新しいことに挑戦してください」と米国駐日大使キャロライン・ケネディさんが述べられたという内容を含んだ佐武正章和歌山支部長挨拶の後、小中学生を対象にした英語スピーチコンテストが、田辺市文化交流センター「たなべる」で盛大に始まりました。

このコンテストは、ペリー来航に先駆けること６２年前の１７９１年(寛政３年)４月２８日、和歌山県串本の紀伊大島にある樫野に、交易を望んで来航したアメリカ船「レィディ・ワシントン号」の船長であり、指揮官でもあったジョン・ケンドリック氏の偉業を顕彰することを目的として、１９９２年から始まり、京都外国語大学校友会和歌山支部が受け継ぎ６年目の支部事業となります。



来賓として、島谷直見校友会会長、清滝幸子会計をお招きし、児童生徒・審査員・指導者・家族・校友会関係者・実行委員スタッフら合わせて約１２０名が見守る中、小学生１３人と中学生１４人が日頃の学習成果を披露しました。小学生の部では、「Cinderella(シンデレラ)」、「George Washington and His Hatchet(ジョージ・ワシントンと手斧)」、「Belling the Cat（ネズミの相談)」の課題文を英語で暗唱し発表しました。中学生の部では、地球環境を通しての考えや、身近にある物の素晴らしさ、体験から学んだことなど、自由な内容の英文を４分以内にまとめ発表しました。子どもたちが一生懸命に発表する姿や表現力が聴衆の心に響き、たくさんの感動を与えてくれました。

京都外国語大学より久保哲男教授、ジェフ・バーグランド教授、元県立高等学校校長の濵野公二先生、和歌山県外国語指導助手のエレイン･ヤン先生を審査員に招き、暗唱度・発音・アクセント・イントネーション・表現力・スピーチ内容などにポイントを置いて審査が行われました。スピーチ終了後、審査委員長の久保先生からは、「全体として素晴らしい内容のコンテストであった。スピーチは強い思いを持つことが大切で、経験を語ると説得力がある。今年はレベルが高く選考が難しかった。」と講評をいただきました。また、バーグランド教授からは、弁論のトピックの選び方、表現方法の工夫について楽しく、そして



分かりやすくお話をしていただきました。



審査の結果、小学生の部では、橋本市立あやの台小学校５年生の池内桜さんが最優秀賞に、橋本市立三石小学校５年生の溝端優さんと、橋本市立あやの台小学校５年生の佐藤翔太君が優秀賞に、奨励賞に上富田町立岩田小学校５年生の小倉愛菜さんと、和歌山市立四箇郷小学校５年生の古賀帆乃花さんが輝きました。また、中学校の部では、智辯学園和歌山中学校１年生の畑磨衣さんが最優秀賞に、有田川町立八幡中学校３年生の井本瑛希君と、和歌山県立日高高校付属中学校２年生の小串楓子さんが優秀賞に、奨励賞に和歌山市立西浜中学校３年生のマッカボイ葉奈さんと、和歌山県立田辺中学校２年生の尾原由衣さんが受賞しました。



なお、大学からは参加賞のボールペン、校友会本部からは入賞者の副賞として「キクタン」と図書カード、及び参加賞のスポーツタオルが、和歌山支部から入賞者への楯と全員に図書カードが贈られました。大会後には和歌山支部から出場者全員に記念写真と審査員４人のコメントペーパー(写し)を送り、今後のスピーチ力向上に役立ててもらうことにしました。出場した子どもたち一人ひとりにとって、今後の大きな励みになることでしょう。

また、審査発表までの間に、地元田辺市立東陽中学校合唱部の皆さんが素敵な歌声とダンスを披露してくれ、会場が手拍子とともに楽しい雰囲気に包まれました。その後、久保哲男教授製作のＤＶＤ「文化をあるく～手をつなごうよ～」観賞では、美しい映像と詩に全員が引き込まれました。当日は、全体が英語一色で溢れる爽やかな一日となりました。

私たち和歌山支部は、将来を担う子どもたちが大きな志をもち、郷土に誇りを抱き、広く世界に目を向けることを大切にしたいと考えています。”PAX MUNDI PER LINGUAS ― 言語を通じて世界の平和を―”の京都外国語大学建学の精神を生かせる社会貢献活動のひとつとして、和歌山支部会員が力を合わせ、楽しみながら取り組んで参りたいと思います。



なお、コンテスト開催に際し、和歌山県教育委員会、京都外国語大学・短期大学、京都外国語大学校友会本部からご後援を、そして大学及び校友会本部から審査員の派遣、参加賞や副賞のご提供、日米協会和歌山からご支援頂きましたことを心より感謝いたします。